1 主題名

「ありがとうの気もち」 【B 感謝】

2 教材名

「きつねとぶどう」(教育出版)

3 主題と教材について

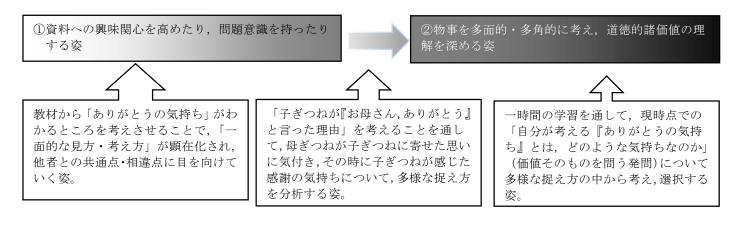
感謝の言葉は日常生活の中で当たり前のように口にされるが、言葉のみが先行し、思いが伴わないこともある。 感謝の気持ちは、他者が自分のために寄せてくれた善意に気付き、どのような気持ちでしてくれているのかを知る ことで芽生え、育まれる。他者が自分に寄せてくれた善意や気持ちについて考え、そのときに自分が感じた感謝の 気持ちについて改めて考えるようにすることが大切である。

本教材「きつねとぶどう」を用いる。「きつねとぶどう」の概略は以下の通りである。おなかをすかせた子ぎつねのために、母ぎつねがえさを取りに行く。巣の近くまで来たとき、猟師がいることに気付いた母ぎつねは、自分の身をかえりみず、子ぎつねを助けたい一心で大声をあげ、子ぎつねを逃がす。何年か経ち、子ぎつねは小さい頃住んでいた辺りでぶどうが実っているのを発見する。その意味に気付き、母に対する感謝の気持ちでいっぱいになる教材である。本時では、改めて日頃お世話になっている人々の行動や善意に着目することを通して、「感謝」について捉え直させたい。

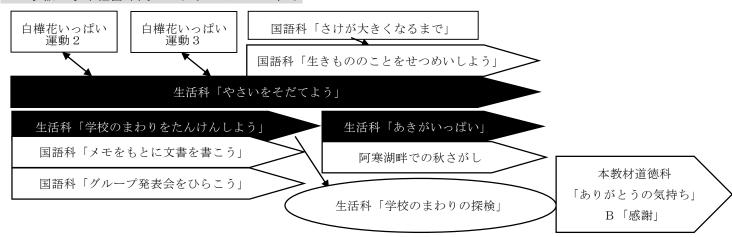
4 本時のねらい

「子ぎつねが『お母さん,ありがとう』と言った理由」を考え,他者の善意に気付くことを通して,「感謝の気持ち」について改めて考え,自己の生き方について考えを深めていくことができる。

5 本時において育みたい自律性と、働かせる「見方・考え方」



6 学級・学年経営年間プログラムとのかかわり



「やさいをそだてよう」「学校のまわりをたんけんしよう」では白樺台地区の人々、「あきがいっぱい」では阿寒の 人々など、身近な人々に様々な面で協力していただいていることから、人々が児童に寄せてくれている善意や行動は 数多くある。そのようなパッケージに道徳科を位置付けることで,子供が,人々の善意に気付き,自らの感謝の気持 ちについて考えるきっかけをつくれるようにしていく。

学びの過程のデザイン~学級経営年間プログラムを基にした内容項目「感謝」との関連的指導

<4月 生活科> 「1年生となかよし」 < 4月 体育科> 「体ほぐしの運動あそび」 「鬼あそび」

< 4・5 月 音楽科> 「音楽に合わせて」

< 7月 生活科> 「やさいをそだてよう」 < 7月 図画工作科> 「たのしかったよドキドキしたよ」

<8月 学級活動> 「夏休みの思い出・作品」 「運動会にむけて」

<10月 算数科> 「正方形と長方形」 <10月 生活科> 「学校のまわりをたんけんしよう」 < 10月 図画工作科> 「ざいりょうからひらめき」

< 1 2 月 特別活動> 文化的行事「学芸発表会」 < 12月 図画工作科> 「わくわくすごろく」 < 1 2 月 国語科> 「『お話びじゅつかん』を作ろう」 < 1 2 月 音楽科> 「音のスケッチ」

< 3月 生活科> 「できることいっぱい」 < 3月 国語科> 「一年間のできごと」

【内容項目】 B:礼儀 【教材名】

「れいぎ正しいあいさつ」

【内容項目】 B:親切, 思いやり

【教材名】

【内容項目】

B:友情,信頼 【教材名】

< 10月 本時>

B 主として人との関わりに関すること

内容項目:感謝

主題名:ありがとうの気もち 教材名:「きつねとぶどう」

「感謝の気持ち」について改めて考え、 自己の生き方について考えを深める。

【内容項目】

B:礼儀

【教材名】

「れいぎ正しいあいさつ」

【内容項目】

【教材名】

B:友情,信頼

【内容項目】

B:親切, 思いやり

【教材名】

「電車の中で」

< 1 1 月 生活科>

< 1 月 学級活動>

「冬休みの思い出・作品」

<2月 特別活動> 児童会活動

「六年生を送る会」

< 2月 図画工作科> 「ともだちハウス」

<2月 算数科> 「はこの形」

< 2月>

「みほちゃんととなりのせきのますだくん」

主題名:ありがとうの気持ちを…

資料名:「ありがとうはだれがいう?」

・感謝の気持ちをもって生活していこ うとする意識を高める。

遠足・集団宿泊的行事 「春の阿寒湖畔」

< 5月 国語科>

「手紙を書いてつたえよう」

< 5月 特別活動>

< 6月 特別活動> 遠足 · 集団宿泊的行事 「ちびっこみどりの学校」 < 6月 生活科> 「楽しいちびっこみどり」

> < 9月 特別活動> 健康安全·体育的行事

> > 「大運動会」

< 9月 国語科> 「メモをもとに文しょうをかこう」 < 9 · 1 0 月 国語科> 「グループはっぴょう会をひらこう」 < 9月 特別活動> 遠足・集団宿泊的行事

「秋の阿寒湖畔」

「子ども広場」

ありがとうの気持ちをもつ心

8 本時について

(1) 本時のねらい

が大切なのかについて考える。

とう」を伝えることかな。

大切だと思う。

・自分にしてくれたことを感じ取る「ありがとう」が

・相手の気持ちや行動をしっかりとわかって,「ありが

「本当のありがとう」を心から言えることだね。

「子ぎつねが『お母さん,ありがとう』と言った理由」を考え,他者の善意に気付くことを通して,「感謝の気持ち」について改めて考え,自己の生き方について考えを深めていくことができる。

(2) 一貫した主体的学びを「つなぐ」ために(個の内面化)

「多面的な見方・考え方」「多角的な見方・考え方」のうち、特に「多角的な見方・考え方」が高まった状態、すなわち何らかの選択・判断をしようとする「見方・考え方」が高まっている状況において、価値そのものを問う発問(「自分が考える『ありがとうの気持ち』とは、どのような気持ちなのか」)をし、個の内面化へとつなげる。

(3) 本時の展開 【評価】 主な働きかけ・手立て 学習活動 個に応じた指導(▲) 1 どんな時に「ありがとう」と言うかについて、自分の経 【発言・道徳ノート】 験を基に考える。 【個の確立】 ・家族が,ご飯を作ってくれた時 □導入における「テーマの提示」として、 どんな時に「ありがとう」と言うかに ・友達が優しくしてくれたり、遊んでくれたりした時 ついて考えさせる。経験的思考を働か ・学校の先生が、困っていたら助けてくれた時 せ,「感謝」という概念の一面的な「見 ・給食調理員さんが、給食を運んでくれた時 方・考え方」を発揮できるようにする。 ・公務補さんが、学校をきれいにしてくれた時 また, 教材から「ありがとうの気持ち」 ・ピアノの先生がピアノを優しく教えてくれた時 がわかるところを考えさせることで, 自分の立場・立ち位置を明確にさせ 2「きつねとぶどう」の資料の読み聞かせを聞く。 ▲ 「ありがとうの気持**」** る。 3 資料から「ありがとうの気持ち」がわかるところを考え ち」について考えなご がら読むことが難り 【見方・考え方を働かせる】 4「コーン、あぶない。」と大きな声で叫んだ時の母ぎつね しいと判断した場 □「『コーン,あぶない。』と大声で叫ん の気持ちについて考える。 合,「ありがとうの! だ母ぎつねの気持ち」について考えさ せ,一面的な「見方・考え方」が顕在 気持ち」に関わる場! ・このままでは、子ぎつねが大変だ。 化されることから,他者との共通点や 面で一度読み聞か ・子ぎつねを助けたい。 相違点に目が向くようにする。 せを止め,一問一答 □なぜ、大声で叫んだのですか。(根拠) 早く逃げて。 方式で場面につい □母ぎつねが大声で叫んだら, 猟師に気 自分が猟師に狙われるかも。 付かれてしまい危ないですね。(限定) て確認を行う。 ・私がこの子の代わりに撃たれよう。 □「『コーン, あぶない。』は, 「ありが ・自分のことはどうなってもよいと考えているね。 とうの気持ち」とは関係ないですよ ・自分のことより子ぎつねのことを大切にしているね。 ね。(限定) お母さんの思いが子ぎつねの「ありがとう」につなが るのかな。 【見方・考え方を高める】 ▲自分の考えが整理; □多様な捉え方に触れたりすること できない児童に対 で、「多角的な見方・考え方(生き方 し,他の児童の発言 5子ぎつねが「お母さん、ありがとう」と言った理由につ についての見方・考え方)」へと高め の中から一番納得! いて考える。 ていくことができるようにする。以 いくものを選択す! 下,必要に応じて,児童に問い返す。 ・お母さんがぶどうをここまで運んでくれたと思った るよう促したり, 組! □子ぎつねは、母ぎつねに何かしても からだよ。 み合わせて考える: らったのでしょうか。(焦点化) 僕を助けてくれたのだと思ったからだね。 よう伝えたりする。 □子ぎつねは,何に気付いたのですか。 (焦点化) ・お母さんは、僕を助けるために、亡くなってしまっ □「ありがとう」と言っているけど, たかもしれないと思ったからだね。 親が子供を助けるのは当たり前なの お母さんのおかげでお腹いっぱいになったからだね。 ではないですか。(限定) ・思い出の味がするからだよ。 □当たり前ではないのは, どうしてで 「僕のためにありがとう」と思ったのだと思うよ。 すか。(根拠) ・「おかげで僕も大きく立派になったよ。」と思った。 □親に助けてもらうだけでいいです ▲自分の考えが整理: か。(限定) ・「この木をお母さんだと思って大切にするよ。お母さ できない児童に対i □自分が考える「ありがとう」と最後 んありがとう。」という気持ちからもあったのかな。 に子ぎつねが言った「ありがとう」 し,他の児童の発言i あの時,お母さんが助けてくれなかったら、僕はこ は同じでしょうか。(焦点化) の中から一番納得! こにいないかもしれない。 □子ぎつねは、何に対してありがとう いくものを選択す! なのですか。(焦点化) ・今、僕が元気に過ごせるのはお母さんのおかげだね。 るよう促したり,組! み合わせて考える! 6周囲の人々に対して、どのような「ありがとうの気持ち」 よう伝えたりする。

【個の内面化】

□「これから」を問う発問(「家族や

まわりの人に対して、どのような 『ありがとうの気持ち』が大切だと

思いますか」)をし、感謝の気持ち

について内面的思考を促す。 ⅠⅡ